

# 羊、だけじゃない！ ニュージーランド



## 山本 清二 (やまもと せいじ)

前・在ニュージーランド日本国大使館一等書記官

1995年北海道開発庁（現国土交通省）入庁。2012年3月から15年3月まで在ニュージーランド日本国大使館に所属、経済関係を担当。現在は、国土交通省北海道局参事官付開発専門官。

（写真はビーハイブ（蜂の巣）と呼ばれる国会議事堂。警官は立っておらず、敷地内は自由に散策できる。）

## はじめに

Kia ora！私は2012年3月から在ニュージーランド日本国大使館に3年間勤務し、今年3月に帰国しました。ここでは、羊だけではないニュージーランドの魅力を、主要産業のひとつである「観光」の視点を加味して紹介します。

はじめに言っておきます。ニュージーランド（NZ）はステキな国です。まだ行ったことがないというそのあなた、今すぐ旅行の計画を立てましょう。

## ニュージーランドの基礎知識

### 地勢

NZがオーストラリアの東にある島国ということをご存知ですよ。でもNZの首都をご存知の方は少ないのではないのでしょうか。→答えはウェリントン。首都としては世界で最も南に位置しています。人口20万人の活気あるクリエイティブな都市です。

さて、世界地図を開いてみましょう。NZのすぐ東に日付変更線が通っているのがわかります。NZは主要国の中で最も早く「日出づる国」です。日本との時差は+3時間（夏は+4時間）。札幌・ウェリントン間は約10,000kmあり、これは札幌からアメリカのボストンやスペインのマドリッドまでの距離に相当します。けっこう離れてるんです。

日本と同様、環太平洋造山帯の一部を構成していて、火山もあります。地震も多く、2011年2月22日には日本人28人を含む185人が犠牲となったクライストチャーチ地震を経験しました。東日本大震災のわずか17日前のことでした。

### ニュージーランドの位置



## 歴史

人類が最初にNZに足を踏み入れたのは約1000年前<sup>\*1</sup>といわれています。先住民マオリの伝承によると、彼らの祖先は「ハワイキ」と呼ばれるポリネシアの島からカヌーでやってきたとのこと。

ヨーロッパ人で最初にやってきたのは、オランダ人探検家のアベル・タスマン。1642年のことです。しかし、マオリから攻撃を受け、結局、上陸は果たせなかったようです。う～残念。でもタスマンは、自身の出身地（オランダ・ゼーランド州）にちなんで、この地を「Nova Zeelandia」と名付けました。これを英語読みにして現在の国名となっています。

その後、1769年にはイギリス人探検家、ジェームズ・クックが訪れ、これを機に18世紀末からヨーロッパ人が移り住むようになります。やがて白人とマオリの間で武力衝突が深刻化し、1840年にイギリス政府とマオリの各部族の酋長たちとの間でワイタング条約を締結するに至りました。この条約はたった3つの条文で構成されています。NZはイギリス領となり、マオリはイギリス国民として認められ、マオリが有する土地の保有権も認められるという内容なんです。英語とマオリ語の解釈のズレから今日でも問題になることがあります。

1907年にはイギリス連邦の自治領となって事実上の独立を果たし、1947年にはNZ議会での議決により名実ともに完全な独立国となりました。

この後の歴史、特に1980年代のロジャーノミクスと呼ばれる経済構造改革はとても興味深いのですが、ここでは省略します。興味のある方は、是非、ググってみてください。



エメラルド色が美しいプカキ湖（モノクロなのが残念！）

※1 諸説ある。

## 国民性

NZの人口は約450万人。人種別では、白人74%、マオリ15%、アジア系12%、島嶼国系7%、その他2%となっています<sup>\*2</sup>。もともと移民の国でもあり、また英語が母国語ということもあって、NZ人にとっての国境というハードルは、私たちが思い描くものよりはるかに低いようです。野心的な人はより良い待遇を求めてどんどん海外に出ていくし、逆に海外からの移民も多く受け入れています。

NZ人は自分たちのことを物静かで控えめな性格とっており、NZ固有の飛べない鳥「キウイ」の愛称で呼んでいます。私のまわりのキウイたちは、必ずしも物静かではなかったですが、明るくおおらかで、とことん親切でした。私たちは「日本人は世界一親切！」なんて擦り込まれていますが、決してそんなことはありません。

NZは、女性の社会進出が最も進んでいる国でもあります。1893年には世界で初めて女性の参政権が認められ、総督と三権の長のすべてに女性が就任していたこともあります。私が仕事でお世話になった政府機関の方も半分以上は女性でしたし、街中では女性のバス運転手だって普通に見かけます。男女平等は当然のこととして受け入れられているというか、平等に扱わないことは完全にNGです。共働きの家庭も多く、父親も家事や育児に当然のごとく参加しています。余談ですが、NZでは同性婚が合法的に認められています。

## 日本との関係

NZは基本的人権や法の支配といった普遍的な価値観を共有する先進民主主義の国です。アジア大洋州地域でそういう国は意外と少なく、わが国にとってかけがえのないパートナーといえます。捕鯨等で立場の違いはあるものの、全般的に大変良好な関係を維持しています。

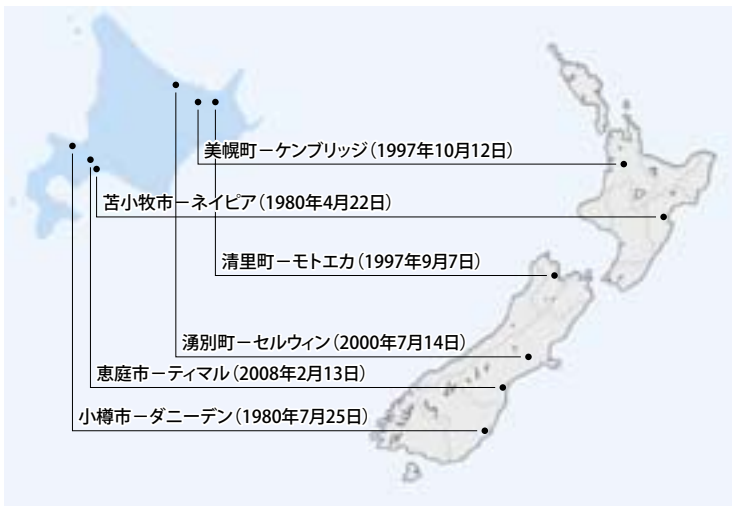
経済的なつながりも大きなものがあります。貿易面では、日本からNZへの輸出額は約2,550億円で、自動

※2 NZの国勢調査では複数回答を認めているため合計が100%を超える。

車が約半分を占めるなど工業製品が中心となっています。逆にNZからの輸入額は2,930億円で、乳製品、木材・木材製品等の農林水産品が約6割、アルミニウムが約15%を占めています<sup>※3</sup>。NZにとって、日本は輸出入とも中国、オーストラリア、アメリカに次ぐ第4位の貿易相手国となっています。

このような政治・経済面での良好な関係もあって、NZには親日家がたくさんいます。みなさんの中には、中学・高校時代、NZから派遣された先生に英語を教わったという方もいるのではないのでしょうか？これはJETプログラム<sup>※4</sup>で派遣された方かもしれません。1987年に始まったこのプログラムにより、NZからはこれまでに約3,000人が派遣されています。姉妹都市も多くあります。NZの自治体は全部で73なのですが、な、な、なんと、このうち42の自治体で日本との姉妹都市関係があります。もちろん国別では日本がトップ。道内関係では6組あり、このうち苫小牧市は王子製紙(株)の進出が縁でネイピア市と姉妹都市となりました。ティッシュペーパーの「ネイピア」は、この都市の名前に由来しています。ワーキングホリデーの協定も、日本は、オーストラリアに次いで2番目にNZと結んでいます(1985年)。20代のみなさんは、このチャンスを生かさないと手はありませんよ！

#### 北海道とニュージーランドの姉妹都市関係



※3 輸出入額は財務省貿易統計による。2014年度。

※4 「語学指導等を行う外国青年招致事業」(The Japan Exchange and Teaching Programme)の略称。自治体が、総務省、外務省、文部科学省及び一般財団法人自治体国際化協会の協力の下、外国語教育の充実と地域レベルの国際交流の進展を図ることを通して日本と諸外国との相互理解の増進と日本の地域の国際化の推進を目的に実施している。

## 100% Pure New Zealand

昨年、海外からNZを訪れた観光客は285万人でした。NZ観光庁の資料によると、観光によるNZ経済への貢献度は、直接効果だけでGDPの5%を超えており、副次的効果を合わせると8.7%となっています。まさに観光はNZの基幹産業。観光大臣の職は首相が兼務して直接指揮しており、外遊時には首相自らNZ観光をPRしています。この結果、NZ国民のひとりひとりに、NZにとって観光がいかに大事かが理解されているんです。これってホント大きいんですね～。

1999年、NZ観光庁は海外市場向けに“100% Pure New Zealand”というイメージ戦略を開始し、他では味わえないNZ独自の体験をPRしています。このピュアなイメージ、クリーン&グリーン、安全・安心というイメージ戦略は、NZのブランド化につながっていて、他の産業政策とも密接に連動しています。エネルギー政策では、現在電力の75%を再生可能エネルギーで賄っていますが、これを2025年までに9割まで引き上げようとしています。ちなみに、NZには原発は1基もありません。また、NZは世界最大の乳製品輸出国ですが、業界関係者は「我々は安さで勝負しているのではない。安全・安心・高品質で勝負しているのだ」とよく話しています。

NZは映画「ラスト・サムライ」のロケ地ですが、NZの映画産業は世界的に知られています。NZで制作され世界的ヒットとなった映画は、ほかに、ピーター・ジャクソン監督(ウェリントン出身)の「ロード・オブ・ザ・リング」3部作や「ホビット」3部作、ジェームス・キャメロン監督(ウェリントン郊外に移住)の「アバター」(現在、続編を制作中)などがあります。



映画「ロード・オブ・ザ・リング」の撮影地・ホビット村(マタマタ)

これは、多様な自然景観、多様な人種を有するロケ地としての魅力、高度な映像処理技術・設備、そして政府や地域によるバックアップ体制の強みが大きいといわれています。現在、NZ政府は、国内での制作費の15%を国が支援する制度を設けていて、これは、新たな映画制作の誘致もさることながら、ロケ地を訪ねる観光客の増加を狙っています。私自身も、よくロケ地巡りをしたものです。

### 北海道でも

世界の主要市場から遠く離れたNZで観光産業が大成功しているのは何故なのか。NZにできて、北海道にできないわけがない、ですよね？

とりあえず、私たちひとりひとりの意識を変えるところから始めようじゃありませんか。

北海道は日本の食料基地であり、北海道の農産物が日本の食卓を支えているという自負があると思います。北海道にとって農業が大事だということは誰もが理解しているんです。それと同様に、あるいはそれ以上に、北海道にとって「観光」が大事だって認識すること、観光客が来ないと自分たちの生計は成り立たないという覚悟を持つことが大切です。この意識を醸成するためには、大規模なキャンペーンが必要かもしれません。

この意識を持てば、観光客を理解しようという姿勢が生まれます。困っている観光客を見かけたら、見ないふりをするのではなく、自分にできることを考えるようになるでしょう。異文化への理解も進むでしょう。若者の視野が広がり外国に関心を持つことで、次世代を担う国際人も生まれてくるでしょう。

まずは、外国人観光客を見かけたら積極的に話しか

けてみましょう。異国の地を訪れている外国人にとって現地人（私たち）との交流は良い思い出になるので、満足度が上がり、リピーターになってくれるかもしれません。

### おわりに

NZは時間や費用を考えると気軽に訪れるというわけにはいきませんが、治安が良く衛生上の問題もなく、英語が通じ、安心して楽しめる観光地としてオススメです。チップも要りません！

NZといえば羊以外に、雪を頂くサザンアルプス、神秘的な氷河や湖、フィヨルド地形などの自然景観のイメージも強いと思いますが、アクティビティも盛んです。NZを旅行する際は、NZ発祥のジェットボートやバンジージャンプのほか、スカイダイビングにトレッキングなども是非お試しください。最近ではNZワインの評価が上がっていて、ワイナリー巡りをする人も増えています（オススメ）。ラグビー好きなら、世界トップレベルの試合を観戦するのもいいでしょう。年に数回は、オールブラックスの試合もやっています。生ハカ<sup>※5</sup>を見られますよ。でも、この時期はホテルの料金が高騰するので要注意。

日程に余裕があれば、レンタカーを借りて、気ままにドライブ観光というのも楽しいです。日本と同じ、左側通行なので運転も楽です。主要観光地にはもれなくi-SITEという公式観光案内所があるので、その場でリアルタイムの情報を得ることも可能です。

どうです？NZに行きたくなりましたか？そうそう、NZは紫外線が強いので、日焼け止めとサングラスをお忘れなく！



氷河探検ツアー（フォックス・グレイシャー）



スリル満点のジェットボート（クイーンズタウン近郊）

#### ※5 ハカ

NZ代表チームがキックオフ前に、相手に対し闘志を見せ、これから戦いに臨むことを表して踊るもので、マオリの文化が引き継がれている。